

群 教 七	F08 - 01
	令元. 272集
	生徒指導

# 集団への所属感や連帯感を生かして 生活できる生徒の育成

——活動の過程を可視化することを通して——

特別研修員 剣持 敬藏

## I 研究テーマ設定の理由

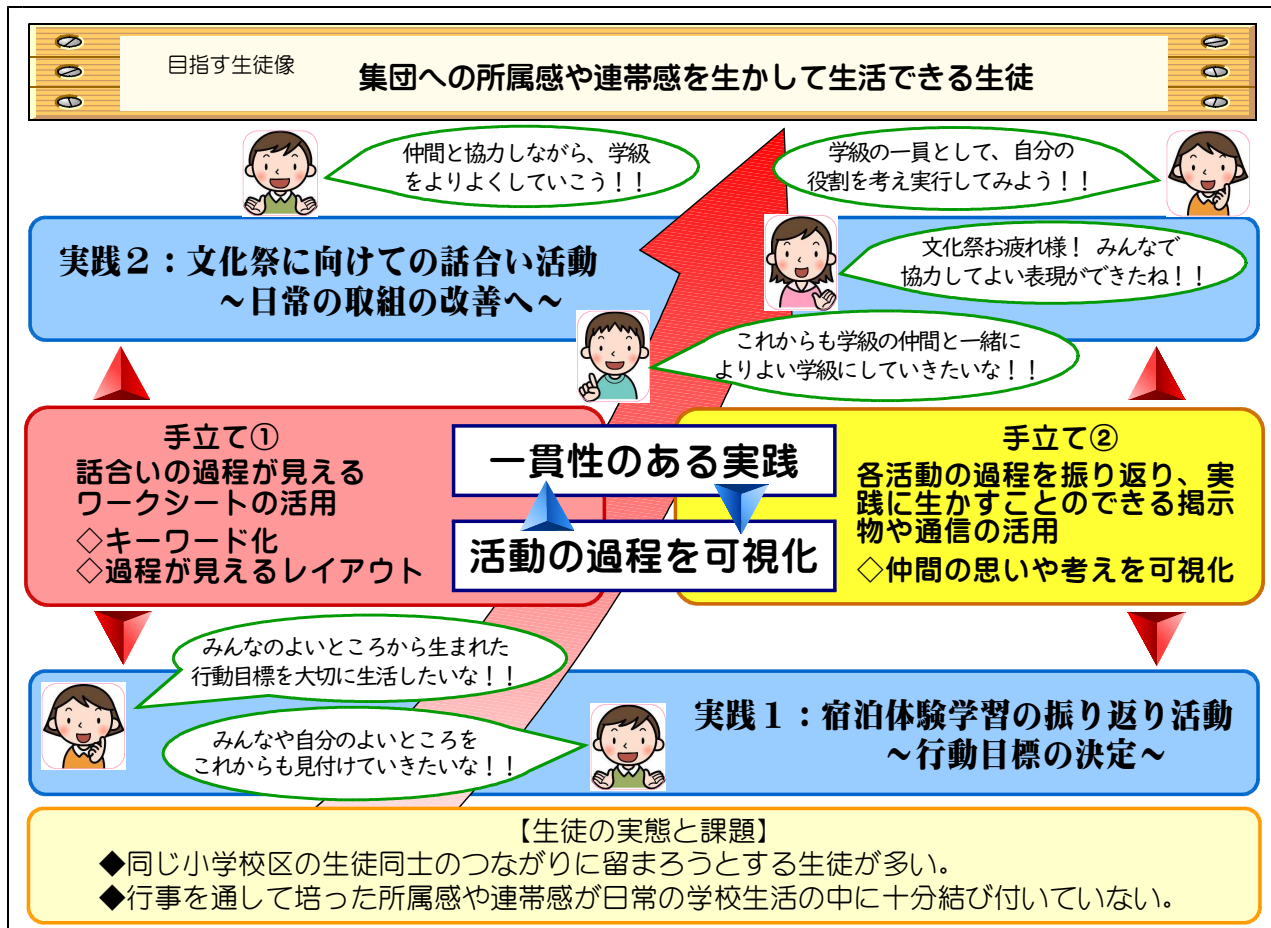
本年度の群馬県における生徒指導の方針として「『一人一人が大切にされる集団づくり』の推進～支え合い高め合う人間関係づくりの充実」が示されている。また、学校教育の指針では、全ての生徒の成長を促すため、生徒指導の三つの機能「自己存在感」「共感的な人間関係」「自己決定」に留意した日常的な指導・支援を行うことが提唱されている。

研究協力校（以下、協力校）は、五つの小学校区から生徒たちが集まっており、新たな仲間との関係をなかなか深められず、これまでの人間関係（小学校生活を共にした仲間）に留まろうとする生徒が多い。また、学校行事を経験することで培った集団への所属感や連帯感が、日常の学校生活（授業や当番活動、委員会活動など）に十分結び付いていない様子が見られる。

そこで、諸行事に向けての取組を軸に、学級会における話合いや振り返りなどの活動の過程を可視化し、日常の学校生活の取組と関連付けることで、生徒たちは共通の行動目標などを意識して学校生活を送ることができると考えた。また、その経験を重ねていくことで、生徒たちは学級の一員としての所属感や連帯感を生かして生活していくことができるのではないかと考え本研究のテーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

集団への所属感や連帯感を生かして生活するためには、授業実践だけでは達成が困難であり、日常の学校生活（授業や当番活動、委員会活動など）における取組をいかに充実させるかが重要である。そこで、諸行事に向けての取組、あるいは話合いや振り返りなどの活動を日常の学校生活と関連付けられるようにその過程を可視化する。そうすることで、生徒たちが共通の行動目標などを意識して主体的に学校生活を送ることができる。その経験を重ねていくことで、生徒たちは学級の一員としての所属感や連帯感を生かして生活できると考えた。そのために、次の二つの手立てを意図的・計画的に取り入れ実践する。

### 手立て1 話合いの過程が見えるワークシートの活用

- ・ 仲間の思いや考えのキーワード化
- ・ 話合いの過程が見えるレイアウト

### 手立て2 各活動の過程を振り返り、実践に生かすことのできる掲示物や学級通信の活用

- ・ 話合いの過程を共有できる掲示物や学級通信
- ・ 実践に向けて共通理解できる掲示物や学級通信

手立て1は、生徒個々の思いや考えを、話合い活動の中で他の生徒に分かりやすく伝わるようにするためのものである。レイアウトも話合いの過程に沿って記入できるようにし、手立て2につなげることができるようにする。

手立て2は、諸行事に向けての取組、あるいは話合いや振り返りなどの活動を日常の学校生活と関連付けられるようにするためのものである。例えば、学級活動（学級会）を実施する際、事前の活動においては、生徒たち自身が課題を見いだすためのアンケートを実施したり、生徒による計画委員会との打合せを学級活動の実施日を考慮して設定したりする。本時の活動を経て、事後の活動の段階においては、掲示物や学級通信を通して事前の活動の様子や本時の活動の様子、決まったこと、仲間の思いや考えを可視化する。そうすることで、学級活動を行ったことの意味合いを再確認するとともに、実践していこうとする意欲を高めることができる。また、「定期的な振り返り」「新たな課題の把握」「解決に向けての話合い」「更なる実践」を繰り返していく中で、生徒一人一人が集団への所属感や連帯感を生かして生活していくことができると考える。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 手立て1では、生徒たちが仲間の思いや考えを端的に捉えたり、意見をまとめたりすることに有効に働いた。また、話合い活動を重ねることで、自身の思いや考えを意欲的に発信する様子や、相手の意見などを尊重しながら話し合う様子がより多く見られるようになった。
- 手立て2では、生徒たちが仲間の思いや考えを共有するとともに、どのような過程を経て生活してきたのか、生活をよりよくしていくためにクラス全員でどう行動していったらよいのかを共通理解することができ、より一貫性のある実践につながった。

### 2 課題

- 話合い活動を更に充実させ（生徒による計画委員会が企画・運営する学級会の継続など）学級の生活をよりよくしていくための取組の質を向上させていきたい。
- 今後も行事での経験が日常の学校生活の取組（授業や当番活動、委員会活動など）へとつなげることができるよう、定期的な振り返り活動を継続させていきたい。

## 実践例

### 1 題材名 「互いのよさを認め合い、よりよい学級にしていこう～宿泊体験学習の振り返り～」

(第1学年・1学期)

### 2 本題材について

協力校は五つの小学校区から生徒が集まっており、新たな仲間との関係をなかなか深められず、これまでの人間関係（小学校生活を共にした仲間）に留まろうとする生徒が多い。また、学校行事を経験することで培った集団への所属感や連帯感が、日常の学校生活（授業や当番活動、委員会活動など）に十分結び付いていない様子が見られるところに課題がある。それを解決しようと、第1学年では昨年度より1泊2日の宿泊体験学習を1学期に実施している。活動場所を学校から町内にある森林公園に移し、宿泊を伴う中で食事づくりやレクリエーション、登山などを行うことは、故郷に親しむ心情を育てるとともに、新たな仲間たちと協力して物事を成し遂げたという体験をすることができる。また、活動の中から互いのよさに目を向け、認め合うことによって、学級あるいは学年という集団の中における所属感や連帯感を培うことができる。

本題材では、宿泊体験学習の振り返りを生かした話し合い活動を行う。行事を経験し見付けることができた互いのよさを認め合い、それを基に今後の行動目標を決める話し合い活動を行うことによって、行事で培った集団への所属感や連帯感を日常の学校生活の中に生かして生活することができると思う。また、実践と振り返りを重ねることで、よりよい学級づくりに向けて学級の仲間全員で取り組んでいくことができると思う。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	互いの意見を尊重し合いながら、更に充実した取組に向けての具体的な行動目標を話し合い活動を通して決めることができる。	
評価 規 準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的・自立的に集団活動に取り組もうとしている。
	集団の一員としての 思考・判断・実践	学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。
	集団活動や生活に 関する知識・理解	充実した集団生活を築くことの意義や、学級や学校の生活づくりへの参画の仕方、学級集団として意見をまとめる話し合い活動の仕方などについて理解している。
過程	主な内容	主な学習活動
事前の 活動	問題の発見・確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊体験学習を終えてのアンケートを実施する。</li> <li>・班の活動を振り返り、自分のよかったところや班の仲間のよかったところをまとめる。</li> </ul>
本時の 活動	解決方法等の 話し合い 解決方法の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の活動の振り返りから、「互いのよさ」について認め合い、これからの学校生活に生かせることを班や全体で話し合う。</li> <li>・行動目標を決定する。</li> </ul>
事後の 活動	実践 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決めたことを実践する。</li> <li>・実践したことの成果や課題を振り返る。</li> </ul>

### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は宿泊体験学習の振り返り活動において、自他のよさを基にこれからの学級の行動目標を決める話し合い活動を行う。この授業を経て、生徒たちが集団への所属感や連帯感を生かして生活できるよう、次のような手立てを具体化した。

#### 手立て1 話し合いの過程が見えるワークシートの活用

班での話し合い活動の中で、宿泊体験学習で見られた自他のよさを挙げながら、行動目標につながるキーワードを探っていく。そして、そのキーワードを達成できると学級にとってどんなよいことがあるか（よりよい学級になっていくか）を理由と共にまとめる。その話し合いの過程が見えるワークシートを作

成し活用した。

## 手立て2 実践の様子を振り返り、更により取組につなげていく意識付けをする掲示物や学級通信の活用

決定した行動目標を実践し、一定期間が経過したところで達成状況に関する振り返りを行い、具体的にどのようなよい姿が見られているのかを各自が考えられるようにした。そして、一人一人の考えを共有できるようにするため、意見を集約した掲示物を作成し掲示した。同時に学級通信を発行することで更により取組につなげていこうという意識付けを行った。

## 4 授業の実際

### (1) 事前の活動

宿泊体験学習の実施後、「宿泊体験学習のスローガンが達成できたか」「自分のよさを見付けることができたか」「仲間のよさを見付けることができたか」などのアンケートを行った。また班活動の振り返りとして、ワークシートに自分や班のメンバーのどのような行動や表情、言葉掛けがよかったのかを具体的に記述した。

### (2) 本時の活動

アンケートの結果を共有した後、班ごとに自他のよさを伝え合い、キーワードとしてまとめる話し合い活動を行った。その際、「話し合いの過程が見えるワークシート」を活用できるようにした(図1)。

- ① 一人の生徒が自分のよかったところ(よかった行動や表情、言葉掛け)を発表する。その際、事前の活動で書いたワークシートを活用する。
- ② 他の生徒たちが①で発表した生徒のよかったところを伝えていく。その際、事前の活動で書いたワークシートを活用する。
- ③ 出されたよかったところは、キーワードとして端的にまとめるとどのように表すことができるか、班の生徒全員で話し合ってまとめる。
- ④ ①②③の活動を班の全員に関して行う。

次に、出された複数のキーワードを基に、学級をよりよくしていくための行動目標としてふさわしいものは何であるかを、出された中から選んだり、連想される新たなキーワードを考えたりしながら、折り合いを付けて二つに絞っていく話し合い活動を行った。その際、「このキーワード(行動目標)をみんな達成できると、学級にとってどのようなよいことがあるのか(学級がよりよくなるのか)」を折り合いを付ける根拠にするようにした。

振り返りカード(3)班

1 班の仲間のよかったところを伝え合いながら、キーワードを探っていきます。

2 班のキーワードを決めよう。どんな「行動」・「表情」・「言葉かけ」があるとよいか？

このキーワードにした理由

互いのよさを認め合う姿が多く見られ、「1」ではよかった行動や表情、言葉掛けが端的なキーワードにまとめられた。

「2」では、「1」でまとめられたキーワードから、学級の行動目標としてふさわしいものは何であるか、話し合いの根拠を基に、多く見られるキーワードを選んだり、新たなキーワードを考えたりする姿が見られた。

図1：話し合いの過程が見えるワークシート

各班の話合いの結果を発表し合った後、本時の活動の振り返りとして、授業の感想と実践に向けての意気込みを書いて授業を終えた。また、発表に用いたカードはすぐに掲示し、実践への意識へと働き掛けるようにした（図2）。



図2：キーワード（行動目標）の掲示

### (3) 事後の活動

実践を一定期間行ったところで、達成状況に関する振り返り活動を行った。アンケート形式で行い、各キーワード（行動目標）の達成率は何%であるか、また具体的にどのようなよい姿（行動や表情、言葉掛け）が見られているのかを各自が振り返った。一人一人の考えを共有できるようにするため、意見を集約した掲示物を作成し、アンケートを行った翌日に掲示した（図3）。同時に学級通信を発行し、アンケートの結果やこの結果をどのように学校生活に生かしていったらよいかについて、行動目標を話し合い実践してきたことで、学級がよりよくなっていること、仲間の思いをこれからも大切に生活していこうなどのアドバイスを掲載した。

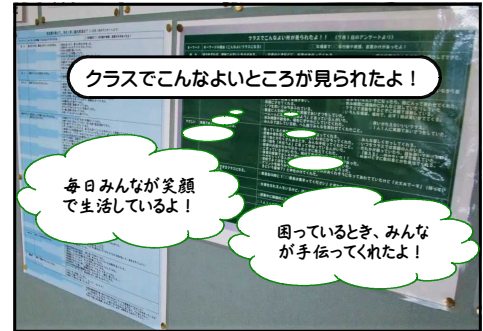


図3：アンケート結果の掲示

意見を集約する際には、「キーワード」「理由（こんなよいクラスになる）」「□□な場面で○○な行動や表情、言葉掛けがあったよ！」の項目を設け、本時の活動で行った話し合い活動とつながりをもたせた（図4）。

キーワード	理由（こんなよいクラスになる）	□□な場面で○○な行動や表情、言葉掛けがあったよ！
協力	協力をすれば、最後に必ずよいことにつながる。	☆学級の旗を作るとき、係の人以外の人でも協力して作ることができた。 ☆重い荷物を持っている人の手助けをしている人がいた。
やさしい	笑顔であふれるクラスになる。	☆困っていると声を掛けてくれて、手伝ってくれた。 ☆よく話しかけてくれたり、相談を受けてくれたりした。
積極的	素早く行動できるようになる。	☆給食の時間、積極的に準備している人が増えた。 ☆「何人か来て」という時、みんな素早く行動している。

図4：集約した生徒たちの意見（一部）

## 5 考察

手立て1においては、本時の活動で用いた「話し合いの過程が見えるワークシート」が、活動の過程を確認しながら進めるのに有効であったことに加え、常によいところ（肯定的に捉えられる内容）が可視化されていたため、前向きな意見が多く出されることにつながったと考える。

手立て2においては、事後の活動で実践の振り返りを集約し掲示した。その結果、キーワード（行動目標）によって、寄せられた意見が様々な場面のことであったり、一つの場面のことに集中していたりする様子をはっきりと確認することができた。同時に学級通信を発行しクラス全員で読み合わせたことは、実践の振り返りをしたことの意味を理解したり、振り返りの結果に対する興味・関心や実践意欲を高めたりすることにつながった。これらのことによって、更により学級にしていくためには、クラス全員でどう行動していったらよいかを共通理解することにつながり、より一貫性のある実践につなげることができた。

この二つの手立てを講じたことによって、研究テーマである「集団への所属感や連帯感を生かして生活できる生徒の育成」に迫ることができたと感じる。今後も実践を継続していくことで、研究テーマの達成に努めたい。